



ITA_利用手順マニュアル

エクスポート/インポート

—第1.11版—

免責事項

本書の内容はすべて日本電気株式会社が所有する著作権に保護されています。

本書の内容の一部または全部を無断で転載および複製することは禁止されています。

本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。

日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任を負いません。

日本電気株式会社は、本書の内容に関し、その正確性、有用性、確実性その他いかなる保証もいたしません。

商標

- ・ LinuxはLinus Torvalds氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ Red Hatは、Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ Apache、Apache Tomcat、Tomcatは、Apache Software Foundationの登録商標または商標です。
- ・ Ansibleは、Red Hat, Inc.の登録商標または商標です。
- ・ AnsibleTowerは、Red Hat, Inc.の登録商標または商標です。

その他、本書に記載のシステム名、会社名、製品名は、各社の登録商標もしくは商標です。

なお、® マーク、TM マークは本書に明記していません。

※本書では「Exastro IT Automation」を「ITA」として記載します。

目次

はじめに	4
1 エクスポート/インポートの概要	5
1.1 メニューエクスポート・インポート	5
1.1.1 機能について	5
1.1.2 モードについて	6
1.1.3 使用例	7
1.2 Excel 一括エクスポート・インポート	9
1.2.1 機能について	9
2 エクスポート/インポートのメニュー、画面構成	10
2.1 メニュー 一覧	10
3 機能・操作方法説明	11
3.1 メニューエクスポート	11
3.2 メニューインポート	14
3.3 メニューエクスポート・インポート管理	16
3.4 Excel 一括エクスポート	17
3.5 Excel 一括インポート	20
3.6 Excel 一括エクスポート・インポート管理	22

はじめに

本書は、ITA のエクスポート/インポートの機能および操作方法について説明します。

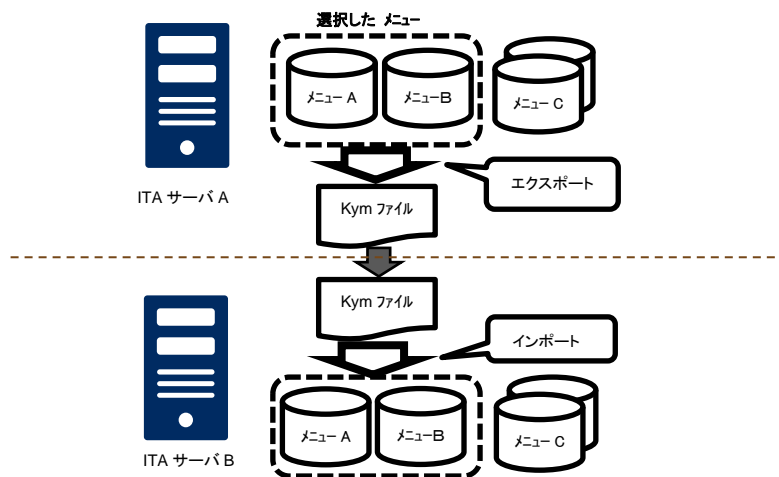
1 エクスポート/インポートの概要

本章ではエクスポート/インポートについて説明します。

1.1 メニューエクスポート・インポート

1.1.1 機能について

メニューエクスポート・インポートは、移行したい ITA のメニューを選択し、メニュー単位でデータを上書きで移行します。

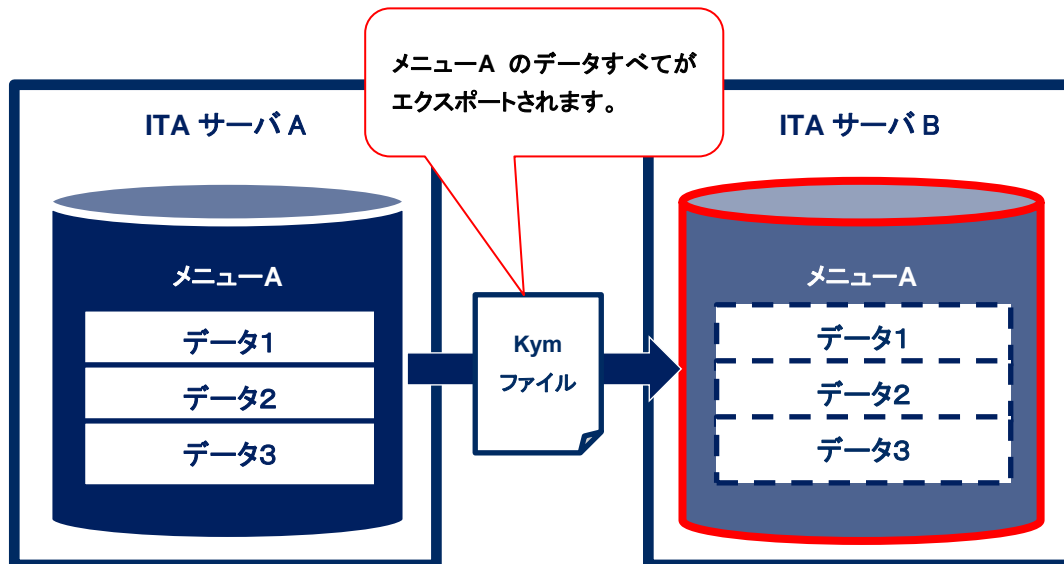


1.1.2 モードについて

メニューエクスポート機能には2種類のモードがあります。

1. 環境移行

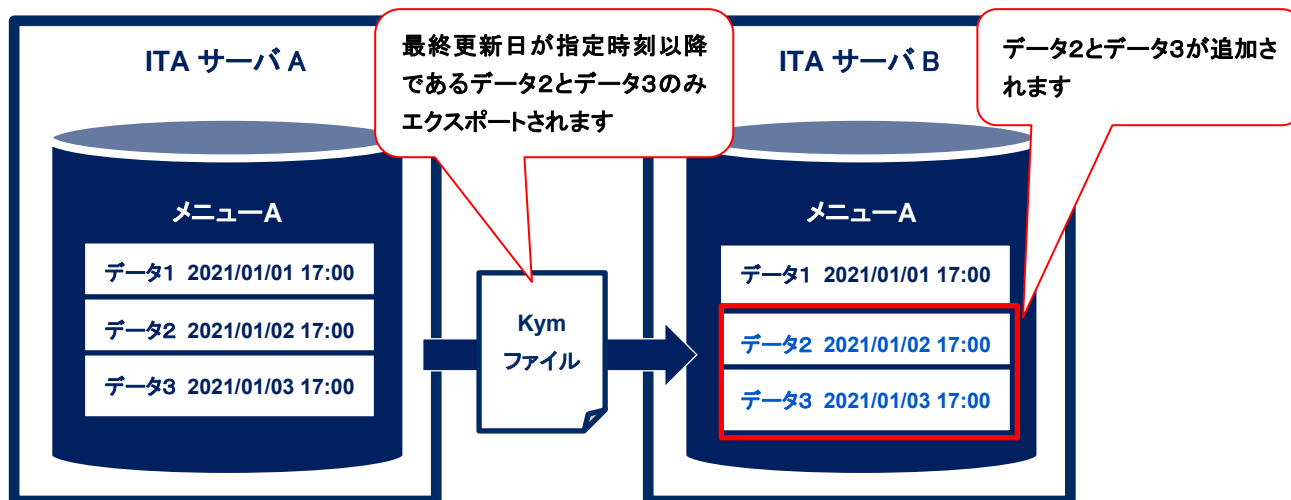
指定メニューのすべてのデータをエクスポートします。インポート先のデータをすべて置き換えます。



2. 時刻指定

指定時刻以降のデータのみエクスポートします。インポート先のデータと一意項目 (ID、No 等) が重複した場合はエクスポートしたデータが優先してインポートされます。

例: 2021年1月2日 17:00 を指定した場合



1.1.3 使用例

本機能では ITA サーバ A と ITA サーバ B の 2 つの環境を使用して、以下のように機能を利用することを想定しています。

パターン①: 環境の複製

ITA サーバ A に登録されているすべてのデータを ITA サーバ B に複製します。

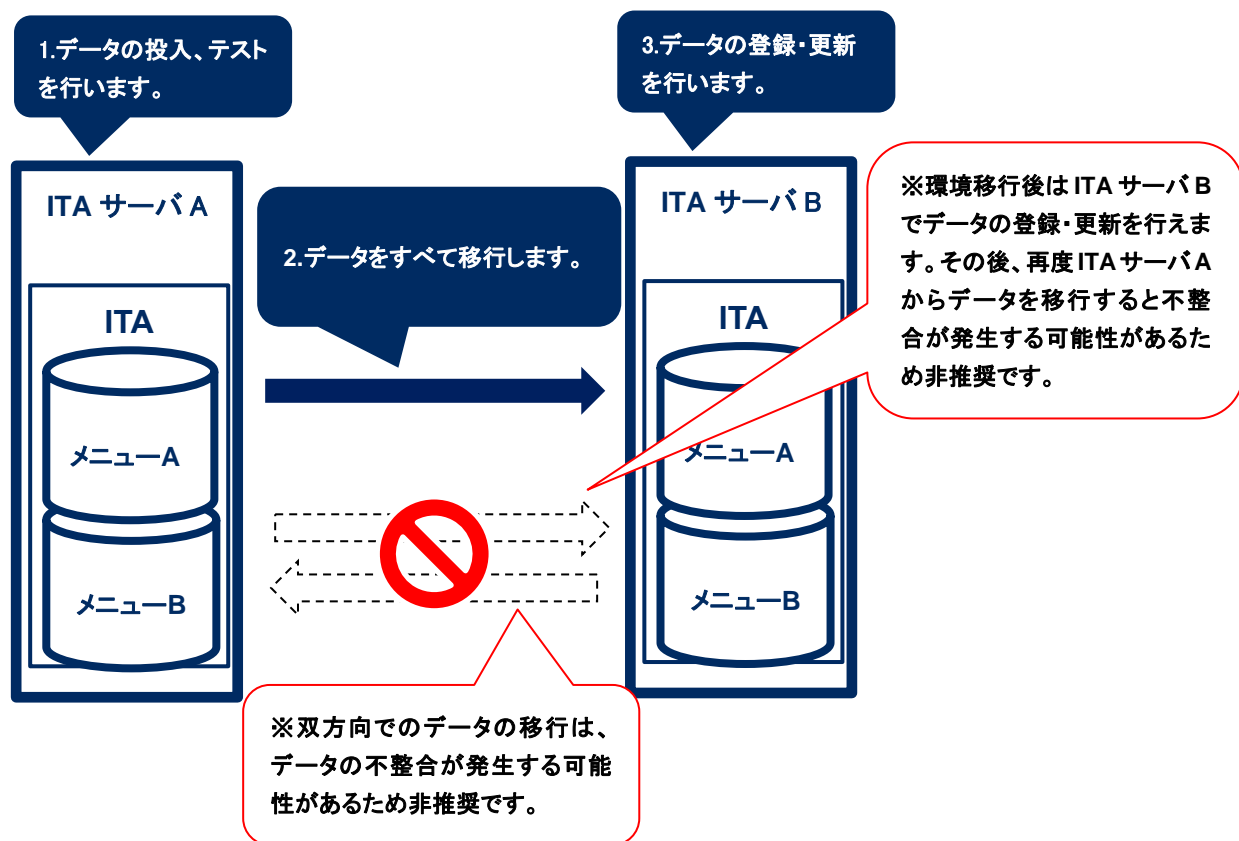
[手順]

1. 環境移行モードにて ITA サーバ A のデータを環境移行モードですべてエクスポートします。

2. 1でエクスポートしたデータを ITA サーバ B にインポートします。

※環境移行後は ITA サーバ B でデータの登録・更新を行えます。その後、再度 ITA サーバ A からデータを移行すると不整合が発生する可能性があるため非推奨です。

※双方向でのデータの移行は、データの不整合が発生する可能性があるため非推奨です。



パターン②: データを投入するサーバと作業を実行するサーバを分ける

データの投入・テスト用サーバと作業の実行のみを行う用のサーバの2点を用意する場合。

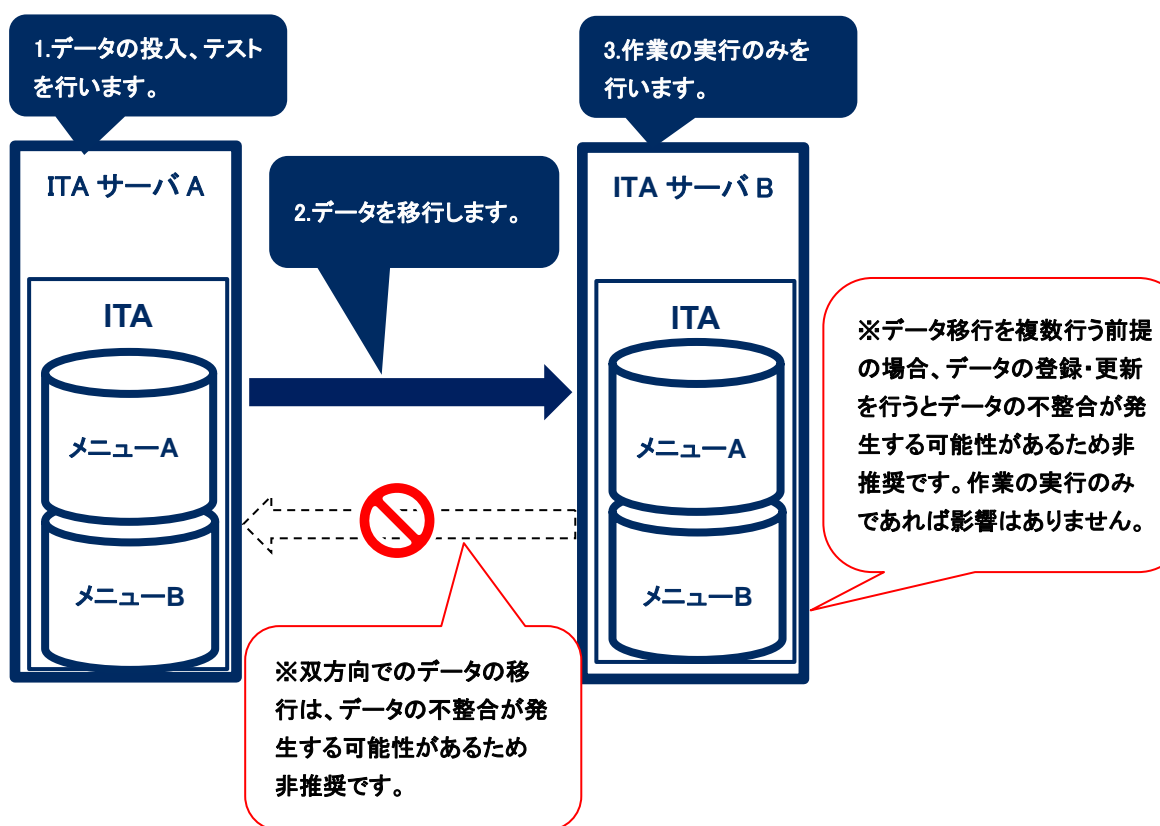
[手順]

1. 環境移行モードにて ITA サーバ A のデータをすべてエクスポートします。
2. 1でエクスポートしたファイルを ITA サーバ B にインポートします。
3. ITA サーバ A でデータの更新があるたびに ITA サーバ B に時刻指定モードで差分データを移行します。

※データ移行を複数行う前提の場合、データの登録・更新を行うとデータの不整合が発生する可能性があるため非推奨です。作業の実行のみであれば影響はありません。

※サーバ B にて作業の実行中にデータを移行する際は、実行中のデータに影響を与えないようにするため、時刻指定モードで差分データのみを移行するようにしてください。

※双方向でのデータの移行は、データの不整合が発生する可能性があるため非推奨です。



1.2 Excel 一括エクスポート・インポート

1.2.1 機能について

Excel 一括エクスポート・インポートは、各メニューにあるダウンロード可能なファイル (Excel/独自フォーマットの CSV) を zip ファイルにまとめて一括でエクスポート・インポートを行うものです。ダウンロード可能なファイルについては『Exastro-ITA_利用手順マニュアル_管理コンソール』を参照してください。

エクスポート可能なメニューは[ロール・メニュー紐付管理]メニューにて『紐付け』項目が『閲覧のみ』もしくは『メンテナンス可』のデータのみです。

インポート可能なメニューは[ロール・メニュー紐付管理]メニューにて『紐付け』項目が『メンテナンス可』のデータのみです。

2 エクスポート/インポートのメニュー、画面構成

本章では、エクスポート/インポートのメニュー、画面構成について説明します

2.1 メニュー 一覧

エクスポート/インポートのメニューを以下に示します。

表 2-1 ITA メニュー一覧

No	メニューグループ	メニュー・画面	説明
1	エクスポート/インポート	メニューエクスポート	メニューのデータをエクスポートします。
2		メニューインポート	メニューのデータをインポートします。
3		メニューエクスポート・インポート管理	[メニューエクスポート]メニューで実行したエクスポートと、[メニューインポート]メニューで実行したインポートの状況を管理します。
4		Excel 一括エクスポート	各メニューにあるダウンロード可能なファイルを zip にまとめ、エクスポートします。
5		Excel 一括インポート	ダウンロード可能なファイルをまとめた zip をインポートします。
6		Excel 一括エクスポート・インポート管理	[Excel 一括エクスポート]メニューで実行したエクスポートと、[Excel 一括インポート]メニューで実行したインポートの状況を管理します。

3 機能・操作方法説明

3.1 メニューエクスポート

ITA システムに登録されているデータを、メニューごとにエクスポートします。

※ データを別の ITA 環境に移す場合、すべてのメニューを対象に移動しないとデータの整合性が壊れる可能性があります。

※ 一部エクスポート対象外のメニューが存在します。対象外のメニューは以下の通りです。

No	メニューグループ	メニュー・画面	No	メニューグループ	メニュー・画面
1	管理コンソール	シーケンス管理	25	比較	比較実行
2		バージョン情報	26		作業実行
3	基本コンソール	ER 図表示	27	Ansible-Legacy	作業状態確認
4	エクスポート/インポート	メニューエクスポート	28		作業管理
5		メニューインポート	29	Ansible-Pioneer	作業実行
6		メニューエクスポート・インポート管理	30		作業状態確認
7		Excel 一括エクスポート	31	作業管理	
8		Excel 一括インポート	32	Ansible-LegacyRole	作業実行
9		Excel 一括エクスポート・インポート管理	33		作業状態確認
10		Symphony	Movement インスタンス一覧	34	作業管理
11			Symphony クラス編集	35	Terraform
12	Symphony 作業実行		36	作業状態確認	
13	Symphony 作業確認		37	作業管理	
14		Symphony 作業一覧	38	連携先 Terraform 管理	
15	Conductor	Conductor 作業実行	39	Terraform-CLI	作業実行
16		Conductor 作業確認	40		作業状態確認
17		Conductor 作業一覧	41		作業管理
18		Conductor インスタンス一覧			
19		Node インスタンス一覧			
20	メニュー作成	メニュー定義・作成			
21		メニュー作成実行			
22		メニュー作成履歴			
23		選択 1			
24		選択 2			

- (1) エクスポートするモードと廃止情報を選択します。
モード一覧と廃止情報一覧を以下に示します。

表 3-1 モード一覧

名称	説明
環境移行	インポート時、既存データをすべて削除してデータを上書きします。
時刻指定	インポート時、指定した時刻以降に入力されたデータを各メニューの一意項目 (ID、No 等) を基に挿入・上書きします。

表 3-2 廃止情報一覧

名称	説明
廃止を含む	廃止状態のデータを含むすべてのデータをエクスポートします。
廃止を除く	廃止状態のデータを除いたデータをエクスポートします。

(2) エクスポートするメニューを選択します。

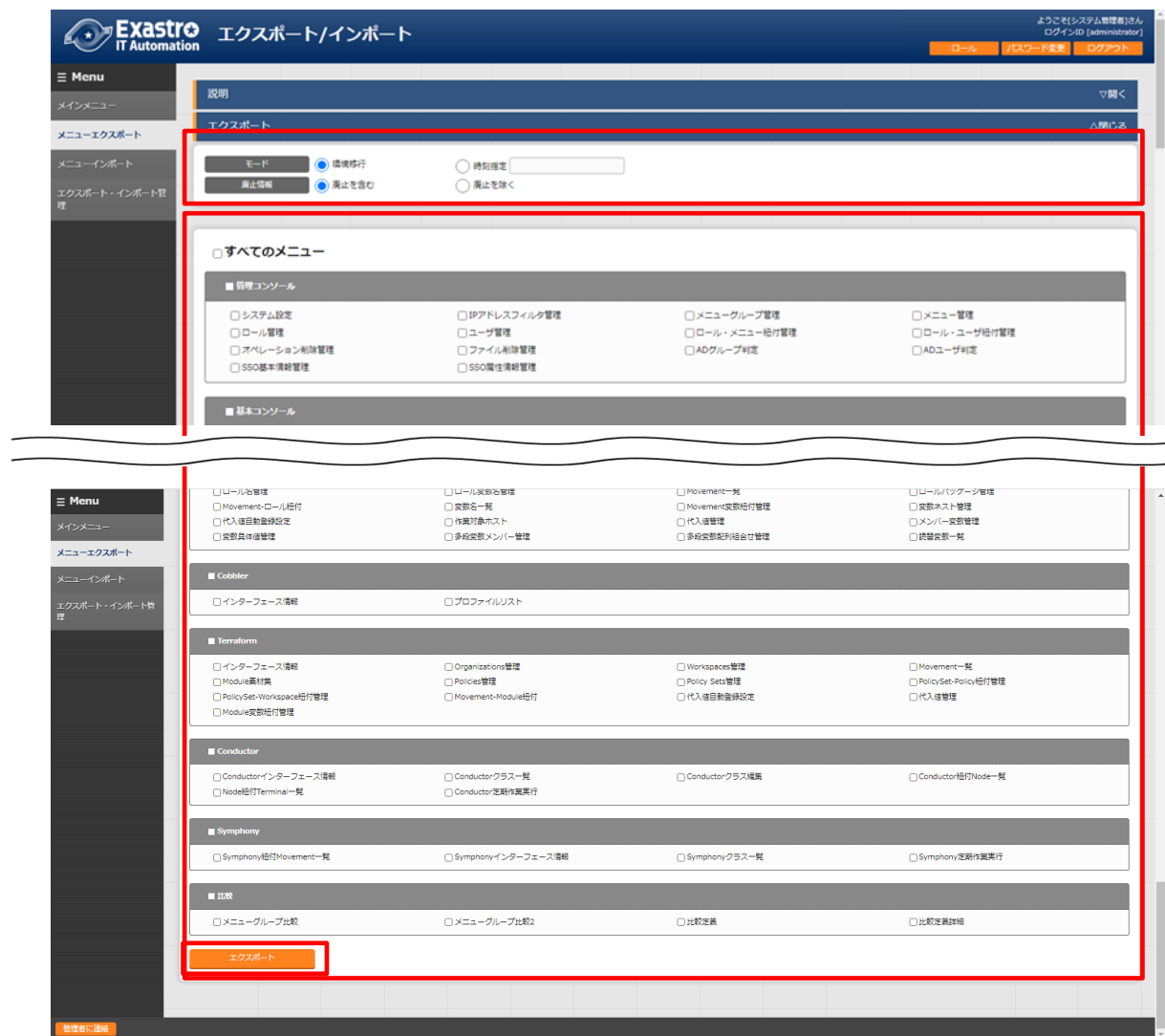


図 3-1 メニューエクスポート画面(1)

(3) メニューを選択後、《エクスポート》ボタンを押下します。
エクスポート処理の実行No.が表示されるので、メニューエクスポート・インポート管理画面で処理のステータスを確認してください。

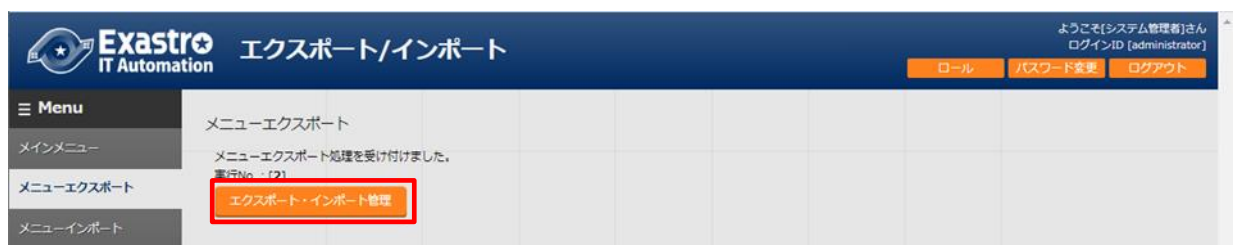


図 3-2 メニューエクスポート画面(2)

3.2 メニューインポート

[メニューエクスポート]メニューでエクスポートしたデータをインポートします。

- (1) インポートするファイルを選択して《アップロード》ボタンを押下します。

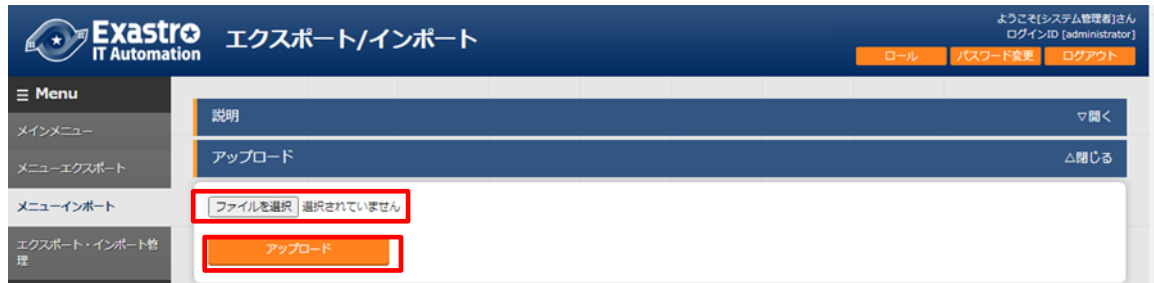


図 3-3 メニューインポート画面(1)

- (2) インポートしたファイル内のメニューの一覧が表示されます。インポートするメニューを選択して《インポート》ボタンを押下します。
チェックボックスがチェックされているメニューがインポートされます。
インポートする必要がないメニューは、チェックを外してください。

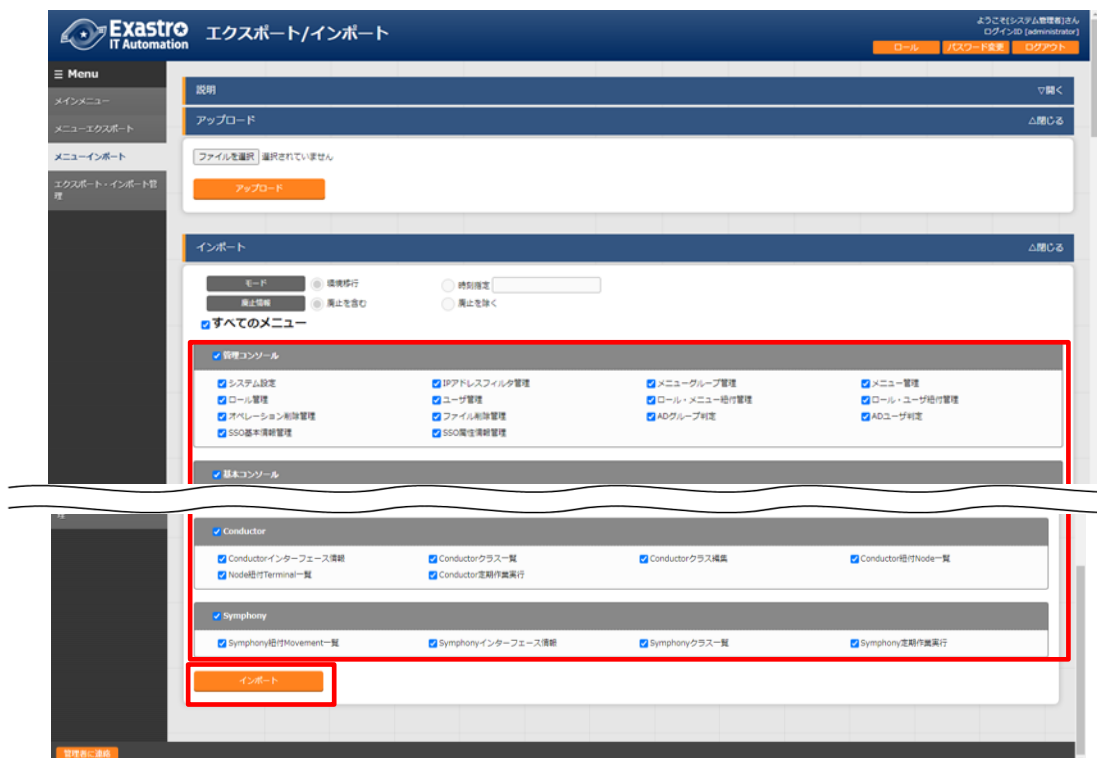


図 3-4 メニューインポート画面(2)

- (3) 受付画面に遷移します。《エクスポート・インポート管理》ボタンを押下すると、[メニューエクスポート・インポート管理]メニューに遷移してインポートの状況確認が行えます。

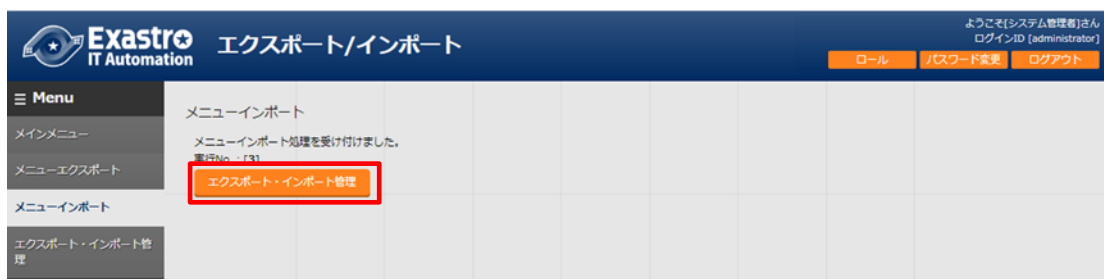


図 3-5 メニューインポート画面(3)

3.3 メニューエクスポート・インポート管理

[メニューエクスポート]メニューで実行したエクスポートと、[メニューインポート]メニューで実行したインポートの状況を管理します。ログインユーザが実行したデータのみ表示されます。

状態	実行No.	ステータス	処理種別	モード	廃止情報	指定時刻	ファイル名	実行ユーザ	最終更新日時	最終更新者
完成	1	完了	エクスポート	環境移行	廃止を含む		1_ita_exporddata_20210707102926.kym		2021/07/07 10:29:26	データワークビリティプロシージャ
完成	2	完了	インポート	環境移行	廃止を含む		2_ita_exporddata_20210707102926.kym		2021/07/07 10:29:58	データワークビリティプロシージャ
完成	3	完了	インポート	環境移行	廃止を含む		3_ita_exporddata_20210707102926.kym		2021/07/07 10:30:28	データワークビリティプロシージャ
完成	4	完了	エクスポート	環境移行	廃止を含む		4_ita_exporddata_20210707103021.kym		2021/07/07 10:30:21	データワークビリティプロシージャ
完成	5	完了	エクスポート	環境移行	廃止を含む		5_ita_exporddata_20210708164612.kym	administrator	2021/07/08 16:46:12	データワークビリティプロシージャ
完成	6	完了	インポート	環境移行	廃止を含む		6_ita_exporddata_20210707102926.kym	administrator	2021/07/08 16:46:44	データワークビリティプロシージャ
完成	7	未実行	エクスポート	環境移行	廃止を含む			administrator	2021/07/08 16:46:36	システム管理者

図 3-6 メニューエクスポート・インポート管理画面

表 3-3 一覧画面項目一覧(メニューエクスポート・インポート管理)

項目	説明
実行 No.	一意の ID が自動採番されます
ステータス	[未実行]、[実行中]、[完了]の順に遷移します。 エラーが発生した場合は、[完了(異常)]になります。
処理種別	エクスポート・・・メニューエクスポート インポート・・・メニューインポート
モード	[環境移行]または[時刻指定]が表示されます。
廃止情報	[廃止を含む]または[廃止を除く]が表示されます。
指定時刻	モードが[時刻指定]の場合にのみ表示されます。
ファイル名	エクスポートの場合、[完了]になるとエクスポートデータが表示されるので、ダウンロードして使用してください。 インポートの場合、インポートしたデータが表示されます。
実行ユーザ	エクスポート処理またはインポート処理を実行したユーザが表示されます。 1.7.2 以前から 1.8.0 以降にバージョンアップした場合は『実行ユーザ』項目が追加されます。 『実行ユーザ』項目が空またはログインユーザと一致している場合データが表示されます。

3.4 Excel 一括エクスポート

各メニューにあるダウンロード可能なファイルを zip にまとめ、エクスポートします。

- (1) エクスポートする廃止情報を選択します。
廃止情報一覧を以下に示します。

表 3-4 廃止情報一覧

名称	説明
全レコード	すべてのデータをエクスポートします。
廃止を除く	廃止状態のデータを除いたデータをエクスポートします。
廃止のみ	廃止状態のデータのみエクスポートします。

- (2) エクスポートするメニューを選択します。
表示されるメニューは[ロール・メニュー紐付管理]メニューの『紐付』項目が『メンテナンス可』もしくは『閲覧のみ』となっているデータのみです。

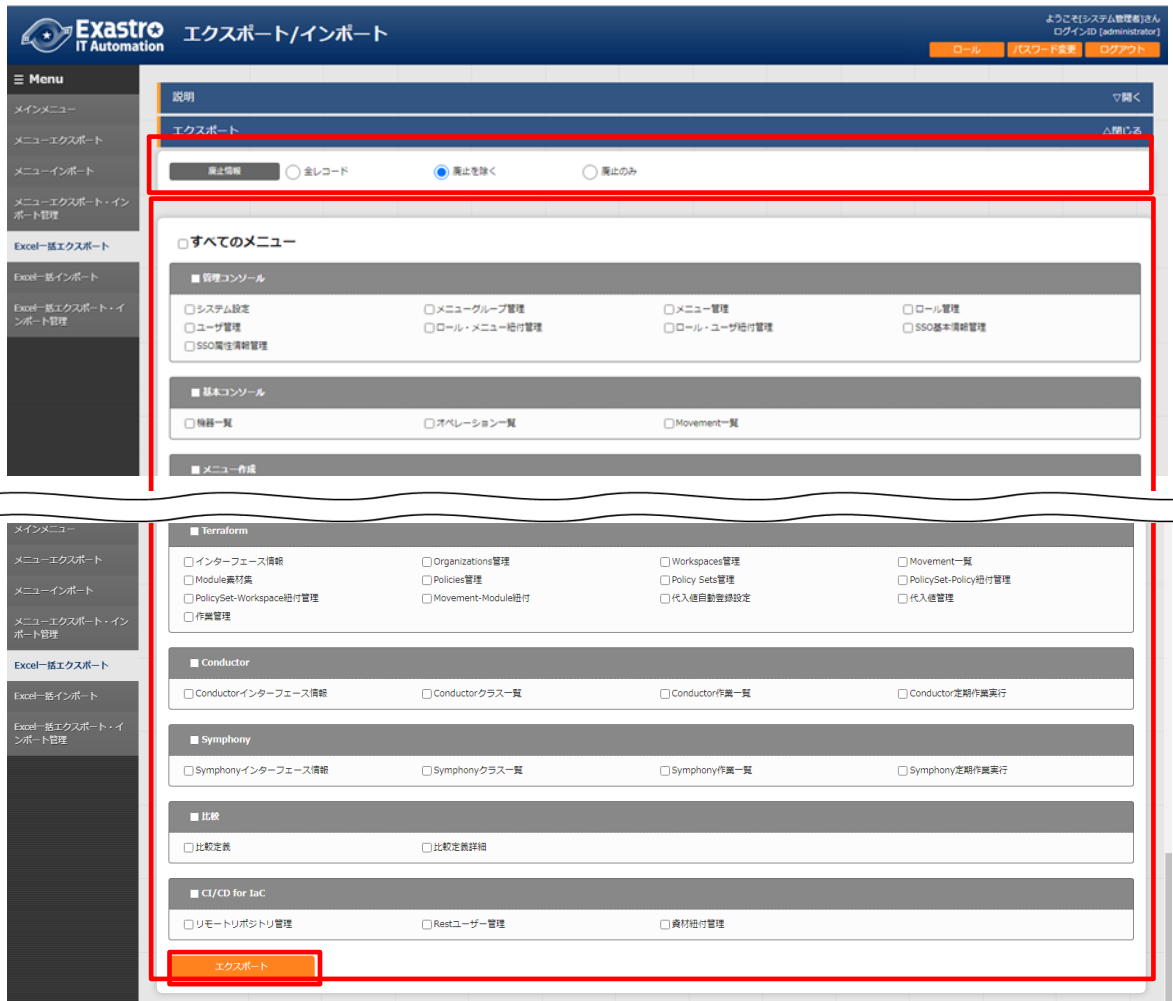


図 3-7 Excel 一括エクスポート画面(1)

- (3) メニューを選択後、《エクスポート》ボタンを押下します。
エクスポート処理の実行No.が表示されるので、[Excel 一括エクスポート・インポート管理]メニューで処理のステータスを確認してください。

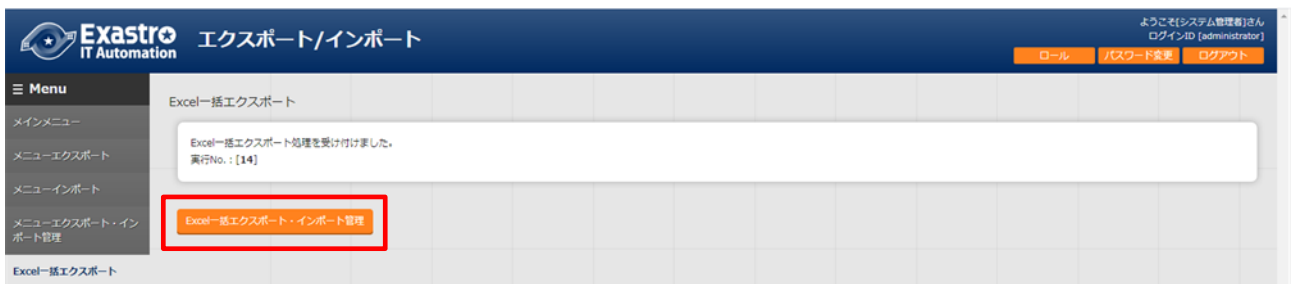


図 3-8 Excel 一括エクスポート画面(2)

- (4) エクスポートしたファイルの中身は以下の通りです。

ファイル構成

```

ITA_FILES_YYYYMMDDhhmmss.zip ...①
├─ MENU_LIST.txt ...②
├─ 2100000002_管理コンソール ...③
│   └─ ユーザ管理_20210708235958.xlsx ...④
│       └─ メニュー管理_20210708235959.xlsx ...④
├─ 2100000003_基本コンソール
│   └─ 機器一覧_20210708235858.scsv ...④
│       └─ 機器一覧_20210708235859.xlsx ...⑤
└─ editBaker ...⑥
    
```

No	名称	拡張子	説明
①	ファイル名	ファイル	ファイル名は『ITA_FILES_YYYYMMDDhhmmss.zip』です。
②	MENU_LIST.txt	txt	エクスポートしたメニューIDとファイル名の一覧が出力されます。
③	メニューグループフォルダ	フォルダ	メニューグループごとに生成されます。 フォルダ名は『メニューグループ ID_メニューグループ名』です。 フォルダ名が 200 文字を超える場合は前方から 200 文字のみ出力されます。
④	ダウンロードファイル	xlsx/scsv	Excelまたは独自フォーマットのCSVとして出力されます。(『各メニュー項目一覧』が[メニュー管理]メニューの『Excel 出力最大行数』を超えている場合、独自フォーマットのCSVとして出力されます。) 所属するメニューグループフォルダの下に配置されます。
⑤	独自フォーマット編集Excel作成素材	xlsx	独自フォーマットのCSVを編集する際に使用する素材です。 出力ファイルに独自フォーマットのCSVが含まれる場合のみ出力されます。
⑥	editBaker	フォルダ	独自フォーマット編集Excel作成ツールです。 出力ファイルに独自フォーマットのCSVが含まれる場合のみ出力されます。

3.5 Excel 一括インポート

[Excel 一括エクスポート]メニューでエクスポートしたデータを編集し、インポートします。

① Zip ファイルの編集

(1) インポートするファイルリストを作成します。

[Excel 一括エクスポート]メニューでエクスポートした zip 内にある MENU_LIST.txt を編集することによってインポートするファイルリストを編集することができます。

MENU_LIST.txt はエクスポートした時点のメニューID とファイル名が記載されています。

『#』から始まる行はコメントとして入力することができます。

フォーマットは以下の通りです。

メニューID:ファイル名

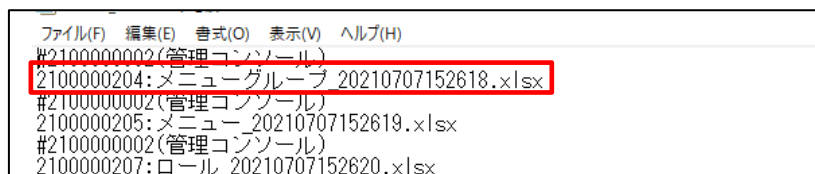


図 3-9 MENU_LIST.txt

※インポートするメニューは[Excel 一括インポート]メニューでも選択可能です。

(2) インポートするファイル(Excel または独自フォーマットの CSV)を編集します。

(3) 編集したファイルを zip にまとめます。

インポートに必要なファイルは以下の通りです。

- ・MENU_LIST.txt
- ・インポートするファイル(Excel または独自フォーマットの CSV)

② インポート処理

(1) 《ファイル選択》ボタンを押下し、インポートする zip をアップロードします。



図 3-10 Excel 一括インポート画面(1)

- (2) インポートしたファイル内のメニューの一覧が表示されます。インポートするメニューを選択して《インポート》ボタンを押下します。
 チェックボックスがチェックされているメニューがインポートされます。
 MENU_LIST.txt に記載されてあるファイルが上から順にインポートされます。
 インポートする必要がないメニューは、チェックは外してください。



図 3-11 Excel 一括インポート画面(2)

以下の条件に当てはまる場合、エラーとなりチェックボックスが非活性化されます。

1. MENU_LIST.txt に2つ以上同じIDを指定する
2. MENU_LIST.txt に2つ以上の別メニューIDに同じファイル名を指定する
3. MENU_LIST.txt のフォーマットに沿ってない記述がある
4. MENU_LIST.txt で存在しないメニューIDを記載する
5. MENU_LIST.txt でインポートした zip 内に存在しないファイルを指定する
6. 別のフォルダに同名のファイルが2つ以上ある
7. 対象メニューに対しログインユーザが『メンテナンス可』の権限を有していない

- (3) 受付画面に遷移します。《Excel 一括エクスポート・インポート管理》ボタンを押下すると、[Excel 一括エクスポート・インポート管理]メニューに遷移してインポートの状況確認が行えます。

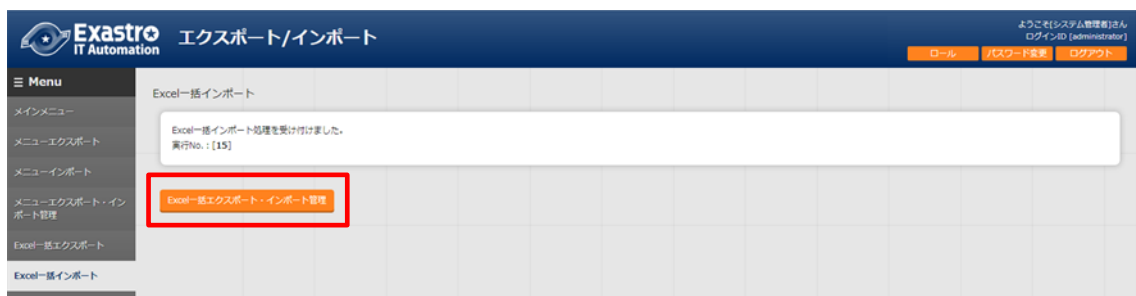


図 3-12 Excel 一括インポート画面(3)

3.6 Excel 一括エクスポート・インポート管理

[Excel 一括エクスポート]メニューで実行したエクスポートと、[Excel 一括インポート]メニューで実行したインポートの状況を管理します。ログインユーザが実行したデータのみ表示されます。

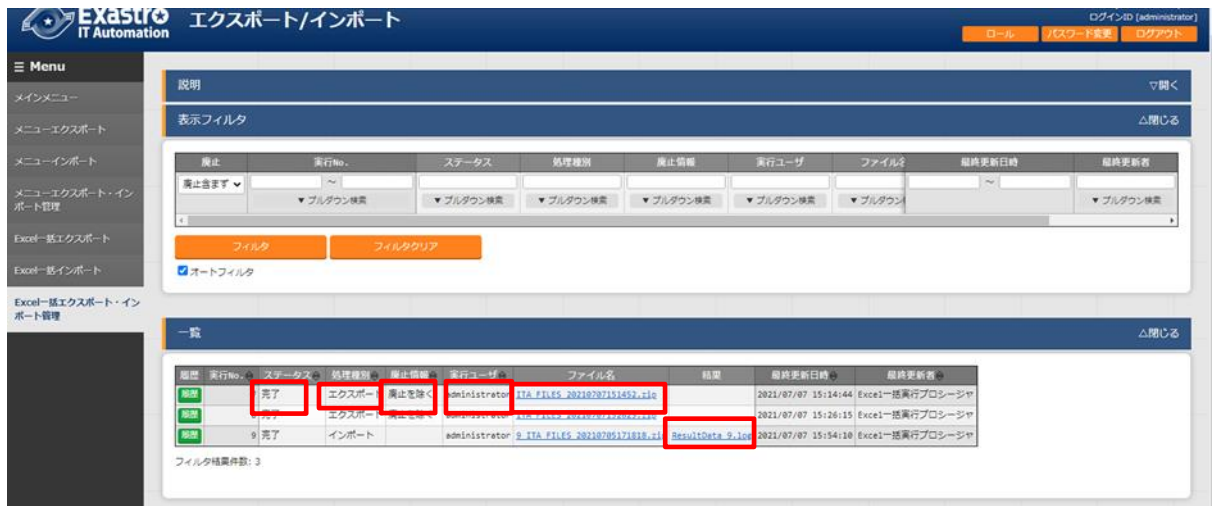


図 3-13 Excel 一括エクスポート・インポート管理画面

表 3-5 一覧画面項目一覧(メニューエクスポート・インポート管理)

項目	説明
実行 No.	一意の ID が自動採番されます
ステータス	[未実行]、[実行中]、[完了]の順に遷移します。 エラーが発生した場合は、[完了(異常)]になります。
処理種別	エクスポート・・・Excel 一括エクスポート インポート・・・Excel 一括インポート
廃止情報	[全レコード]、[廃止を除く]または[廃止のみ]が表示されます。
実行ユーザ	エクスポート処理またはインポート処理を実行したユーザが表示されます。
ファイル名	エクスポートの場合、[完了]になるとエクスポートデータが表示されるので、ダウンロードして使用してください。 インポートの場合、インポートしたデータが表示されます。
結果	インポートした結果を記載したテキストファイルが表示されます。 ダウンロードして使用してください。

結果ファイルのサンプルを以下に示します。
インポートしたファイル単位で結果が出力されます。

2100000003_基本コンソール:2100000501_紐付対象メニュー
入力ファイル:Ansible 紐付対象メニュー_20210708023537.xlsx

登録: 0件
更新: 2件
廃止: 1件
復活: 1件
エラー: 0件

2100000002_管理コンソール:2100000208_ユーザ管理
入力ファイル:ユーザ_20210624111008.xlsx

登録: 0件
更新: 0件
廃止: 0件
復活: 0件
エラー: 1件

line: 11 ユーザ名:次の条件を満たす必要があります。(条件:タブと改行以外の文字(最小値:1バイト,最大値:270バイト))

必須項目です。(項目:ユーザ名)

2100000003_基本コンソール:2100000327_ER 図メニュー管理
入力ファイル:ER 図メニュー管理_20210708023538.xlsx

このメニューの編集用 Excel ファイルではありません。